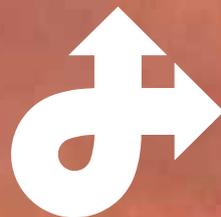


新制作

SHINSEISAKU



Vol.69 / 2015

夏号

新制作協会 広報誌

第79回展

Hide

元気で魅力的な79回展を

わたしたちの新制作協会は、年に1回の展覧会を東京で開催してきました。若き9人の青年画家たちによって1936年（昭和11年）に始められた当初の展覧会は、芸術的主張と大きな志を持った小さな展覧会であったのではと想像します。回をかさねて昨年の新制作展は絵画、彫刻、スペースデザインをあわせ 655 点の作品が陳列され、豊かで魅力的で品格のある展示空間を作り出しました。会期中に約5万人のみなさまが観に来てくださいました。大きく実った展覧会は、第79回目の新制作展を迎えます。戦時下に1回展覧会を休みましたので、来年は80周年で80回展を迎える記念すべき年となります。美術の世界やそれを取り巻く社会状況はその時代に似た様な気配も感じますが、だいぶ様変わりもしてきました。創立時に掲げた精神はこの時代にも色あせないで、多様化し進化したアートは確実に生活の中に定着しつつあります。

会が大きくなると硬直化し権威主義を産むという組織の構造とは無縁のきわめて良好で自律的な努力をしてる中で、新人であつてもベテランであつても作家として参加し、自由で互いにリスペクト出来る関係を築き上げています。

ふと、想いかえしてみると、初出品初入選の時から、既に40年が経っています。2回の落選（痛かった！）と1回の不出品（窯が壊れた）を除くとちょうど40回作品を出品して来たことになり、ひとつひとつの作品が思い出されると同時に新制作の懐の中で育てられてきたことを感慨深く想います。

展覧会を観ることでかなりのキャリアがあります。実は父親も彫刻部会員でしたので、小さな時から父親に連れられて展覧会を見てきました。特に上野の旧都美術館はエントランスの長い登り階段をあがりきると、広い彫刻室が左右に広がっているのが一望でき、作品との出会いにわくわくしたこと



委員長
くぼ せいいち
久保 制一

を覚えていますし、純粋に作品を観て回ることを楽しんでいただきたいと思います。

今年は「子ども・アート・しんせいさく」をテーマに純粋で無垢な心を持った小さな子ども達が沢山来場して観てもらえるようにと3部合同の企画を準備中です。親子で会場をオリエンテーリングのようにまわったり、大きな部屋で、子ども達とワークショップをしたりと考えています。子ども達の素直でストレートな表現に出会えることを期待しています。この秋、79回展が元気で魅力的な展覧会として開催でき、会場でステキな作品と人との出会いがたくさんありますことを心より祈念いたします。

2015年度協会新代表委員

[代表委員]

委員長 久保 制一（彫刻部）
副委員長 佐野 めい（絵画部）
" 佐和 和子（SD部）

委員 ● 絵画部
松木 義三、矢澤 健太郎、山口 都
屋嘉部 正人
● 彫刻部
上松 和夫、宇多 花織、永津 守
増井 岳人
● SD部
下山 肇、田中 遵、野口 育郎
吉田 淳子



代表委員

[合同委員会]

- 会計委員会
- 図録委員会（図録/広告）
- 美術館担当委員会
- 広報委員会（広報・PR/会報/HP）
- IT委員会
- 受賞作家展委員会
- 慶弔委員会
- 美術団体懇話会
- 会計監査

新制作展に初めて応募される方、すでに作品応募の準備をされておられる方へ…

作品公募制ですので、質の高い優秀な応募作品を期待し、貴作品による発言の場を設けています。

公募情報は、美術関係誌広告、協会発行の公募ポスター・リーフレット・応募規定、公式ホームページをご覧ください。

応募申込みと問い合わせは

- Tel / 03-6233-7008
- Fax / 03-6233-7009
- E-mail / webmaster@shinseisaku.net
- 公式HP / <http://www.shinseisaku.net/>

新制作協会

〒160-002
東京都新宿区新宿6丁目28番10号
大阪屋ビル202号



※新作家賞受賞者には、賞牌として絵画部会員・佐藤泰生氏の作品が授与されます。

第79回 新制作展

9.16(水) — 9.28(月)

10:00 ~ 18:00 (入場 17:30 まで)

[開催時間等は変更の場合あり。開催状況の確認は、国立新美術館HP・ハローダイヤル(03-5777-8600)で]

国立新美術館

入場料 一般：800円 (学生・65歳以上無料)

金曜日 20:00 終了 (入場 19:30 まで)

最終日 9/28 (月) 14:00 終了 (入場 13:00 まで)

会期中休館日なし

Information

巡回展開催日程

- ◆ 京都展
京都市美術館
10/20(火)~10/29(木) 休館日10/26(月)
- ◆ 名古屋展
愛知県芸術文化センター8Fギャラリー
11/25(水)~11/29(日) 休館日なし
- ◆ 広島展
広島県立美術館・県民ギャラリー
12/8(火)~12/13(日) 休館日なし

各部より

絵画部

松木 義三

自由と純粋さを求めて新制作派協会が創立され79回展を迎えます。

展覧会ごとに残された図録を覗いていきますと時を経て、ものの見方感じ方のその時々の変化を鮮やかに示していますが、幅をも押し広げてきたことを実感します。絵に取り組む精神の自由と純粋さのなせる技でしょうか。

昨年新会員になられた方の言葉に「他の会にはない厳しさ、洗練された密度の高い作品群とスマートな展示、シンプルな賞に魅力を感じ出品を続けてきました。」とありました。新制作展の発する力は脈々と継承されているのど感じました。新制作に集う私たちは難儀を承知で好きこのんでこの道にあえて踏み込んできたと言えましょう。

本年も良い展覧会を開催しましょう。

今年も絵画部では以下の三つの部門に分けて公募いたします。

- 1、一般作品部門
- 2、小作品部門
- 3、データ画像部門

詳しくは応募規定を御覧ください。

昨年は早稲田大学教授の丹尾安典先生をお迎えしての対談「表現をめぐる」を美術館講堂で行いました。多くの参加者にお集まりいただき好評でした。今年も良い企画を考えています。震災以来続けておりますチャリティー販売を今年も続けます。

初日にはオープントークを、20日にはギャラリートークを予定しています。

懇親会は表参道に会場を移して開催致します。交流を深める楽しいひとときを持ちましょう。

●オープントーク / 絵画展示室

9/16 (水) 14:00 ~ 16:30

●ギャラリートーク / 絵画展示室

9/20 (日) 14:00 ~ 17:00

●グッズ及びチャリティー販売

会期中 / 絵画展示室2階奥の休憩室



彫刻部

宇多 花織

世の中には明るい兆しが出始めているようですが、彫刻を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況です。追い風にのったバブル期に比べると、彫刻作品の重量や、かさむ材料費・運搬費用等は、手軽さが求められる世相には見合わないものなのでしょう。じわりと、世界が縮小していく気配さえ感じています。

しかしながら彫刻は、やはり途方も無く魅力的で、心を揺さぶる大きな力を秘めています。それを理解し制作を続ける私達は、全力で作品に取り組み、上質の展覧会を催し、その魅力を力強く伝えていくべきでしょう。ある人は斬新なテーマや表現方法を模索し、ある人はより核心に近い表現に行き着く。そして、渾身の作品の力を合わせて、密度の高い展覧会を開く。さて、私達の79回展が始まります。

●オープントーク / 彫刻展示室

9/16 (水) 15:00 ~ 16:30

初日のオープントークでは、受賞者達が瑞々しい言葉で語ります。どうぞご清聴ください。また昨年より受賞者のキャプションに QR コードを設け、会期中いつでも受賞者の情報をご覧頂けるようになりました。

●ギャラリートーク

9/20 (日) 14:00 ~

会期半ばのギャラリートークでは、ベテラン会員のナビゲートで彫刻展示室を廻ります。出品作家は勿論、会場のお客様にもご発言を頂きながらのアートツアーです。是非大勢のご参加をお待ちしております。

●チャリティー作品販売

震災からの復興協力活動として、会員の小品・デッサンの期間内販売を続けております。売り上げの8割を復興支援の寄付にあてています。どうぞご協力をお願いします。

●ポストカード販売

作品数が増えて充実してきました。格安でお好きな作品カードをお求め頂けます。



スペースデザイン部

下山 肇

新制作スペースデザイン部（以下 SD 部）は「空間＝スペース」におけるあらゆるジャンルのデザイン作品を対象とします。

展示空間は、床置き、壁付け、宙吊りや、照度をおさえた空間、また自然の光や風を感じる野外空間などさまざまです。加えて、7年目を迎えたミニアチュールも表現の場として定着し、展示会場において重要なアクセントになってきています。

79回展を迎え、より一層充実した魅力ある会場づくりを目指しております。さまざまな作品表現とその空間をご覧頂きたいと思います。

●レクチャー (6回目) / 3F 研修室または講堂 (予定) 9/26 (土) 15:00 ~ 16:30

タイトル『素材と空間 (仮)』SD 部会員、伊藤哲郎氏、藤原郁三氏を講師に迎え、お二方の最近の作品から、建築や空間と陶、コンクリートの関係について語っていただきます。またそこから、昨今デザインの重要なテーマの一つともなっている「サステナビリティ」についても、お話しが広がることでしょう。

●フリートーク / SD 展示会場

(予定) 9/26 (土) 16:30 ~ 17:30

会員や出品者、また観覧者が自由に話し合える時間です。作品に対する質問や意見を交わせる有意義な時間です。

会員が会場にてお待ちしておりますので、お気軽にお声かけください。

※ 尚、開催日時は変更になる場合がございます。詳細についてはホームページに掲載致します。ご確認ください。

●チャリティーグッズの販売

大変好評を頂いております、会員によるスペースキューブと会員及び受賞作品の写真はがきを会場にて販売いたします。尚、収益金は [あしなが育英会] を通じて「東日本大震災津波遺児募金」に寄付させていただきます。

SD 部はこれからも創作活動を通じて被災された方々を応援いたします。



受賞作家展



銀座 井上画廊

1/19 MON - 1/24 SAT

受賞者

- 海野 厚敬 ■ 下倉 剛史
- 奥山 久美子 ■ 大道寺 里子
- 金井 健一 ■ 森 愛子
- 近藤 オリガ ■ 山根 康代



近藤 オリガ
古い鏡台の前で F100



金井 健一
原風景 117x92cm



下倉 剛史
市バスにて F100



大道寺 里子
いつしか時は...1 F100



海野 厚敬
カゲロウー1 F100



奥山 久美子
植物の生活 F100



森 愛子
太陽の車輪1 F100



山根 康代
観 F100



建築会館ギャラリー

2/9 MON - 2/14 SAT

受賞者

- 五十嵐 通代 ■ 半澤 友美
- 伊藤 清子 ■ 中曽根 清子
- 萩原 真輝



中曽根 清子
刻1・刻2 各 180x91cm



半澤 友美
covered with desire-a 170x80x80cm

彫刻

ギャラリーせいほう

2/9 MON - 2/20 FRI

受賞者

- 大野 良一 ■ 濱田 卓二
- 高家 理 ■ 原田 理糸
- 小松 俊介 ■ 藤原 逸樹
- 田島 享央己

78 ⇨ 79 回新制作展彫刻部シード作家：
大野 良一、高家 理、小松 俊介



濱田 卓二
Casa テラコッタ



原田 理糸
空にのびる形 榿



小松 俊介
憶 - マゲノリア - 黒御影石



藤原 逸樹
Mariposa セメント



田島 享央己
You Don't Know What Love Is 楠



高家 理
春の修羅 #2 花崗岩



大野 良一
ぬし 乾漆



五十嵐 通代
たそがれ 140x210x25cm



伊藤 清子
波紋 30x40x25cm



荻原 真輝
宿り木 250x70x40cm

新制作生みの親

新制作生みの親・育ての親 〈12〉

絵画部会員 荒井 茂雄

みなさんこんにちは。ようやく暖と冬が交互に来ながら、春が近づいてきましたがみなさんはお元気ですね。

今回は、ドイツ人カメラマン、マリオ・Aが猪熊弦一郎をロングインタビューしたカメラの前のモノログのなか（ニューヨークはやっぱり魅力のある街）の一部を抜粋して載せました。

ニューヨークはやっぱり魅力のある街

日本を発つにあたって、初めはワールド、アラウンド、トリップの切符を買って行ったんです。ですから、ニューヨークに行つてすぐパリに行こうと思っていたんです。で、グルッと廻つて帰る予定だったんです。ところがニューヨークが好きになってしまった。やっぱりいい作家が集まってましたものね、世界中の、1955年です。ニューヨークを見たとき街の大きさと力強さ、美しいこと、僕の行ったときのニューヨークは素晴らしかったんです。ニューヨークが持っている魅力というのはアーティストがたくさん来ていることも魅力だったけれど、空間の大きさね、ああいう強さというのは大変な魅力でした。パリにも3年いましたけどパリと全然違うんです。

55年に行つて、半年ぐらいでアパートみつけて、これはここで勉強し直さなきゃいけないと思った。そのときもう五十幾つでした。あの頃はまだ、抽象絵画なんて日本では誰も解かりもしない、誰もやろうとしなかった時代です。ニューヨークに行くと、すでにそういう研究もされてましたし、あらゆる新しいことをしていましたから、なんでもなく通り過ぎるということではできなかった。僕はそんな絵描きじゃなかったわけ。もうびつくりしましたから、これはやらなくちゃいけないと、それが私を幸福にしたんじゃないかと思つたよ。パリで勉強した通りを今まで続けていたらつまら

ない絵描きになっていたと思う。ここでジャンプするということが大事だということを実感しましたね。

皆にもはやされて伸びていくだけでは、いいものではないと思いますね。

ですからニューヨークに行つて大きなハンマーでガンと叩かれるような思いがしましたね。生徒からやり直す気持ちになりました。お金はなかったですけど、飛行機のワールド、アラウンド、トリップ、チケットの半分残っていたのをお金に戻してもらつて、夫婦でいましたからお金がかかりました。まずアパートを95丁目に見つけて…。また、95丁目を見つけたことが僕にはラッキーだったんですよ。あそこはたくさんアメリカのいいアーティストが住んでいる街だった。隣の94丁目にアザウェルとかフランケンサーラーなんていたんです。音楽家ではギタリストのセゴビアとか住んでいたの。その通りで二度目に引越したアパートの前にマーク・ロスコがいたんです。ロスコと僕は毎日顔を合わせてた。その隣がハッシュフィールドっていうニュースペーパーに漫画を描く人がいて、ジョージ・キャバロンとか皆同じ通りでした。そういう連中と仲良くなって遊ぶようになりましたからね。日本にいた頃と考え方が全く変わってきました。どうして95丁目をチョイスしたかは覚えていませんが、今でもラッキーだったと思います。

20年間ずっと同じところにいました。スタジオはダウントウンにあつて、毎日通つたんです。自宅では描けませんから、ロフトのようなところを見つけてみてね。23丁目です。マジソンスクウェアガーデンのすぐ前ですからエンパイアステートビルが窓から目の前にすぐ見えるんですよ。でもそこは火事で燃えちまったんです。それでグレードジョーンズというところに引越しました。いろいろ変わつていろんなことをしながら、とにかく20年間あそこにはいました。

アーティストっていうのは、その土地によってその草が生えるのと同じことですよ。水を吸つて皆とつきあつて友達ができて、それでみんな自分が違ってくるんですよ。

ニューヨークで経験したことは東京では経験できないですね。やっぱり広すぎるからでしょうね。マンハッタンというのは狭いですよ。東京の何分の一かでしょう。広いっていいとはいけません。やっぱりある程度の適度な広さというのは大事。マンハッタンがあれだけ気持ちがいいというのは、あれから延びていかないから。延びるところがないから上へ上がったんですよ。

また、東京と比べて人間のつきあい方も、全く違います。あそこはユダヤの方が多いですよ。土着の人と全く違う競争心みたいのがありますね。根っからのファイティングみたいなね。あらゆるものにそうじゃないですか、芸術だって、日本みたいに一つの団体を組んでアートを育てるようなところは全然ないですね、インディヴィジュアルですよ。自分一人だけだから。自然にアーティスト同士、仲がいいけどライバルですよ。ライバルの意識がないと伸びないと思いますね。ライバルがあればあるほどいいと思いますよ。何でも、絵以外のものでもそうだと思いますね。ニューヨークはそういうものを持っていると思つたすね。それに比べると、パリはどっちかというところ、ロマンティックですからね。絵をそこで描いて展覧会しようなんていう気持ちはなかったですね。

猪熊弦一郎はそのときを生かし、そのことを生かして、そのものを生かす生きかたをなさつた人です。今回もニューヨークを喜びをもって青春の世界に生かして展開し、現代作家の魂を獲得しています。

今回はこれにてお別れです。又次回にお会いいたします。

訃報 (平成27年3月末現在) 新制作協会発展に尽力されました故人を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

田澤 茂
絵画部会員



平成 26 年 11 月 24 日逝去
(享年 89 才)

鈴木 武右衛門
彫刻部会員



平成 26 年 11 月 29 日逝去
(享年 65 才)

濱岡 登美子
彫刻部会員



平成 27 年 1 月 23 日逝去
(享年 91 才)

新制作協会資料（図録・目録・スクラップブック）のアーカイブについて

彫刻部会員 河西 栄二



創刊号～第5回展図録

彫刻部 IT 委員の河西です。過去の資料のアーカイブを私と SD 部 IT 委員の谷さんと進めています。

今回はその進捗状況の報告と、作業で見つけたおすすめの内容や懐かしい写真を紹介します。

図録アーカイブ作業では、私が画像データへのスキャン作業を担当し、谷さんがデータの修正、加工、PDF 変換作業を行っています。

創刊号から第 78 回展までの図録・記念誌の内、約 70 冊のスキャン作業が終わっています。しかし谷さんの行っている作業は約 13,000 枚のスキャンデータを 1 枚毎に修正・調整を施すため、まだ時間のかかる作業が沢山残っています。

原本がなくスキャン作業ができていないのは、8、9、10、12、13、14、15、19 回展の 8 冊です。また、1～31、35、37、40、44 回展も事務所保管用に寄贈を受け付けています。寄贈可能な号がありましたらぜひご協力をお願いします。

図録・記念誌のおすすめは、特集の座談会や協会史の記事です。以下はタイトルの一覧です。現在、東京都現代美術館、国立新美術館、国立国会図書館等で閲覧可能です。

- 1956 年第 20 回展記念特集「古い歴史を顧み、新しい出発を考える」
- 1966 年第 30 回展座談会「日本の芸術の主体性について」
- 1976 年新制作四十年記念素描集「新制作



2001 年 第 65 回展 会員集合写真 東京都美術館

四十年」座談会「新制作の 40 年」

●1986 年第 50 回展記念誌「新制作五十年」座談会「新制作 50 年の回顧と展望」、竹田道太郎氏「新制作協会 50 年概史」

●2006 年第 70 回記念 座談会「新制作 70 回展を迎えて」

●また、1991 年第 55 回展図録には、「会員顔写真」が掲載されていて、作品しか知らない会員の顔を見て、イメージと同じか眺めたものです。

●第 63 回展から第 72 回展の図録には、会員集合写真が巻末にありました（写真は 2001 年第 65 回展）。このページからも当時の様子が懐かしく思い出されます。

スクラップブックは、1936 年から 1989 年頃まで約 50 冊あり、展覧会目録、チケット、広報関係書類、新聞記事、入場者及び会計報告書、手紙、会報、東京府美術館使用決定書など

様々なものがまとめられています。現在分類、整理に取り組んでいるところです。1936 年の「スクラップブック No.1」は、事務局担当の三田康氏によるもので、巻末には、楽譜「愉快なる仲間 17 人の歌」も綴じられています。

下の写真は、1973 年第 37 回展のスクラップブックにあった審査風景です。

80 年近い歴史を持つ新制作協会の図録・目録・スクラップブック等は、近現代美術史の貴重な資料です。

これらの整理・保管、デジタル化を行うことで、劣化の激しいものも、必要な時に見ることができるようになると考えます。

資料の活用・公開に関しては、今後代表委員会で検討される手順となっています。こうした資料が様々な調査・研究に生かされれば良いと思います。



絵画部審査風景 1973 年 第 37 回展



彫刻部審査風景 1973 年 第 37 回展



SD 部審査風景 1973 年 第 37 回展

公募団体ベストセレクション

Best Selection 2015

5月4日(月)～5月27日(水)

会場：東京都美術館

この度は、「ベストセレクション 2015 展」に御推薦いただきありがとうございます。多くの秀作の中から選ばれましたことは誇りに思うと同時に責任も感じております。会員推挙から5年、造り表現したいことを素直に形造って参りましたが、切磋琢磨する新制作の、時に厳しく時に優しい風は、私の造形にいつも風を当ててくれています。今回はフォローの風、いやアゲインストか、それでも尚、地に足をつけて自分の信じる制作を続けて行きたいと思っています。

新制作で作品を試すことしか考えて来なかった私ですが、今回は他団体の作品に触れ、大いに刺激を受けたいと思っています。

造り生きること、今となってはかけがえのない生き方をさせていただいていることに感謝しながら、胸を張って出品したいと思います。頭の中は次の制作のことでいっぱいなのですが…。

彫刻部 加藤 裕之

《伝言板》

●昨秋、逝去された絵画部会員・田澤茂氏を偲んで、3月8日ローズホテル横浜に於いて「田澤茂先生を偲ぶ会」が営まれました。

●図録のバックナンバーについて

8、9、10、12、13、14、15、19回展の図録で寄贈可能な号がありましたら、皆様ぜひご協力をお願い致します。また、1～31、35、37、40、44回展も事務所保管用に寄贈を受け付けています。

●会員名簿の追記シールについて

会員名簿に貼る最新版のシールが配られましたが、このシールの剥離紙が、なかなか剥がれずくせ者です。ちょうど裏にカット線が入っているところはいのですが、ほとんどはピッタリ剥離紙がついています。えい面倒だと剥離紙に糊付けしている人もいるくらい。という訳で剥離紙のはがし方を伝授。

◎コーナーを一边が2～3mmの三角形になるように何度か裏表に折っていき剥がれる。

たいした技ではないのですがお試ください。

という訳で、私の名簿は最新バージョンになっています。(K.S)

編集後記

編集にあたり、御寄稿、御協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

(岩間)

訂正とお詫び

会報Vol.68の誌面に、間違いがございましたことを関係者並び読者の皆様にお詫び致します。

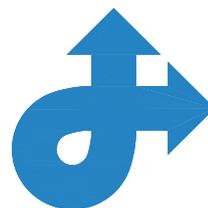
5項：(誤) アウシュビッツ → (正) アウシュヴィッツ

7項：(誤) ゼダ・ヒガシダ → (正) ゼロ・ヒガシダ



出品作家

山内 秀臣	「原風景」
平田 智香	「マリオネット達」
沼本 秀昭	「流転図」
豊澤 めぐみ	「ハッピーエンド / アンインストール」
加藤 裕之	「空をゆくもの 2014」
江村 忠彦	「ひとり」
森 史夫	「間瓢」
田中 遵	「the world in the twelve」



新制作協会

〒160-0022

東京都新宿区新宿 6-28-10 大阪屋ビル202

Tel:03-6233-7008 Fax:03-6233-7009

URL: <http://www.shinseisaku.net/>

E-mail: webmaster@shinseisaku.net

発行 / 新制作協会

企画・編集 / 広報委員会 広報誌編集委員

千葉 文隆、辻井 久子、田中 直子、

岩間 弘、吉村 維元、中野 威

監修 / 久保 制一

制作・印刷 / 株式会社 ベクトル

発行日 / 2015年5月

表紙絵 / 山内 秀臣

* 広報委員会では、新制作展に関わるニュース、伝言、ご批判、ご意見をお待ちしております。お気軽にお寄せください。次号をご希望の方は協会事務所迄ご連絡ください。